

## 竹内さんの「日本」便り

前回の「ウクライナ便り」で、読者の皆さんにいったんおいとまを告げたばかりですが、思いがけず編集部から、18年半のウクライナ滞在を終えての帰国報告を書くよう依頼がありました。

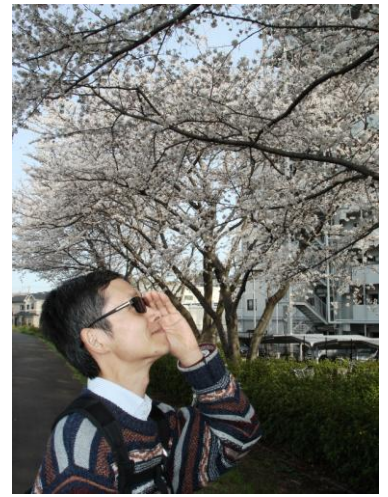
私は3月11日に妻と帰国し（特別にその日を選んだわけではなく、たまたまそうになりました）、その後郷里の岡山市でアパートを探し、家具や電化製品を買い込み、昨日引っ越したばかりです。まだ片付いていない荷物の傍らでこれを書いています。日本で携帯電話やインターネットの契約をするのは初めてで、戸惑うこともいろいろとありました。ウクライナでは携帯電話の利用について契約など必要ありませんし、インターネット回線使用の契約手続きもごく簡単なものです。しかし日本では契約のタイプを決めるにあたって、あまりに多く複雑な選択肢があり、私などにはすみやかに理解できず、一見利用者に多様なサービスを提供しているかのような幻想を与えつつも、結果として親切とはいえないのではないかと感じてしまいます（電化製品そのものの機能が、やたらに多くわかりにくいと同様）。スーパーマーケットのポイントカード・システムや、セルフサービスの安い食堂チェーンの出現など、最近のウクライナで見られるのと同じような現象にも出会いますが、これは世界的傾向、あるいはアメリカで生まれたシステムが世界に光被している（？）のでしょうか。

18年半前の日本での生活と大きく違うところは、ウクライナ人の連れ合いと一緒にいることで、過去4度日本に来ている彼女にとっても、長期滞在の住民として、また職場を持つ者としての滞在では、いろいろと新しい発見があります。

新幹線の自由席というシステムは、彼女には理解しにくいもので、「これだけ高い特急料金を払っているのに、座席がなければ何時間も立っていなければいけないというのはどういうことか。どうして座席の数以上の切符を売るのか」と言われました（ウクライナでは、鈍行列車であってもすべて指定席なので、「何

時間も立っている人」はあり得ない）。

一方、今ではスカイプというものがあるので、妻は日本のアパートの内部（畳・ふすま・押入れ）や電化製品などを、ウクライナの母親や



<19年ぶりのお花見(横浜にて)>

カナダ在住のウクライナ人の友人に次々と見せて解説し、彼女らは興味津々でそれらの画像に見入っています。ちなみに、神戸あたりに住んでいるロシア人女性が、日本での生活をロシア語で詳細に綴っているブログもあるようで、日本の日常のこまごました事象は、このようにして世界各地に知れ渡りつつあるものと思われます。

中 勘助の「日記体随筆」を「今のブログみたいなものですね」と評した、京都在住のウクライナ人日本文学研究者がいましたが、英語や露語に訳されて有名な枕草子だの徒然草だのも、当時の日本人の生活を窺わせるブログのようなものかもしれませんね。

ところで、岡山市在住の私の旧友によれば、福島原発の事故後、東日本からある程度離れ、気候も温暖で地震等の天災も比較的少ない岡山に避難・移住している人も多いのだそうです。それらの人たちをサポートする主旨の集まりもあったとのこと。福島第1原発での冷却システムのトラブルについての報道も最近あり、現在、同原発でどのような作業がどのような状況で行われているのか、そこで作業している人たちの被曝はどうなっているのかがいつも気にかかっている私としては（ウクライナで元チェルノブイリ事故処理作業員の人たちに会うと、いつも聞かれるのがこのことです）、ますます懸念を募らせる出来事でした。上記旧友など、思いを同じくする岡山の人たちと語り合う機会ができればと願っています。（3月28日）